資料３

**日本万国博覧会記念公園**

**将来ビジョン　骨子**

**(たたき台)**

大阪府府民文化部

***○ビジョンの策定にあたって***

　平成26年4月から大阪府が管理運営する万博記念公園については、258haという広大な公園の資源を最大限発揮させ、世界のヒトを惹きつけ、後世に誇れるような公園となるよう、統一感のあるテーマを持たせたビジョンが必要である。

そこで、ビジョンの策定にあたっては、**公園全体を総合的に検討できるよう審議会において議論された理念・方向性について多様な観点から調査分析を行い、具体的な事業手法について提案できる業者をプロポーザル方式により選定する。**

**《検討の視点》**

**・世界からの集客が見込まれる公園づくり**

**・文化・スポーツ・みどりが一体となった統一感のある公園づくり**

**・交通アクセスを念頭においた公園づくり**

**・収支がバランスする、持続可能な公園運営**

**・統一感をもった公園運営が実現できる運営手法**

***Ⅰ.万博記念公園の現状***

**１．施設の概要**

※日本庭園、自然文化園、スポーツ施設、文化施設等の施設規模・内容を概括的に記載

**２．現状分析**

※事業収支、利用者層、利用率、満足度、老朽対策状況等を概括的に記載

**３．課題抽出**

※現状分析を踏まえた施設の課題等を記載

　（１）緑地部分

　　　①日本庭園

　　　　　日本有数の規模を有するにもかかわらず、来訪者は自然文化園利用者の15％程度に留まる。茶室の活用を含め、さらなる集客が必要。

　　　②自然文化園

　　　　・再生した森の維持保全と活用方策

　　　　・梅林、椿などの見所のあり方

・自然観察学習館を拠点とする自然学習のあり方

　（２）スポーツ施設

　　　万博記念公園におけるスポーツ施設の種類、質、量のあり方（対象年齢層、利用者範囲）

①万博記念競技場（補助競技場〈運動広場〉を含む）

・吹田市立スタジアム（仮称）完成に伴う利用（収入）減。

・陸連第1種認定(H29.3月更新)の取扱い。

　　　②野球場

　　　　　観覧席等の機能付加。

　　　③パークゴルフ

　　　　　公園施設としての活用・存置。

　（３）文化施設

　　　①太陽の塔

　　　　　耐震補強と併せ、公園の顔としてどう活用していくか、内部公開のあり方を検討。

　　　②EXPO’70パビリオン

　　　　　太陽の塔と併せた集客の取り組み。

③大阪日本民芸館

特色ある施設だが、来館者が少ない。運営のあり方が課題。

④国立民族学博物館

　　　　　他施設との連携策の検討。

　（４）駐車場

　　　・収支バランスを踏まえ、利用しやすい料金の検討。

・（仮称）吹田市立スタジアム、南側ゾーン活性化事業などの整備状況を踏まえたサイン・誘導システムが必要。（繁忙期の駐車場確保）

・公共交通機関の利用促進策が必要。

（５）イベント・広報

・５つの広場を活用したイベントの展開方策

・「食」文化など１年を通じた集客の仕組みづくり

・有料施設に相応しい広報のあり方

***Ⅱ.目指すべき公園像***

**１．万博記念公園のポテンシャル**

　　　万博記念公園は、１９７０年に「人類の進歩と調和」をテーマに大阪で開催されたＥＸＰＯ’７０の会場跡地で、世界の人々と交流し、感動を共有した場所。そのシンボルとして今なお残る太陽の塔など、歴史的ポテンシャルがある。

また、万博記念公園は近畿自動車道、名神高速道路など交通機能の結節拠点に位置し、アジア各地と結ばれている関西国際空港とも高速道路で結ばれ、立地ポテンシャルが非常に高い場所。

**２．検討の背景**

　　　観光立国を推進し、アジアの都市間競争に打ち勝つためには、海外から人を呼び込む仕掛け、都市魅力の創造が不可欠。

大阪府は、万博記念公園の広大な資産を引き継ぎ、貴重な緑を守りながら、にぎわいづくりと地域の活性化に有効活用を図ることを目指し公園を承継。

**３．方向性**

万博記念公園のポテンシャルを最大限に発揮し、貴重な緑を守りながら、にぎわいづくりと地域の活性化を図る**「世界のヒトを惹きつける文化公園」**として整備・運営していくこととし、次の３つの主要テーマをもつ公園を目指す。

**《３つのテーマ》**

**・国内外の人が一度は行ってみたい観光公園**

**・文化・スポーツ・みどりが育まれる広域拠点公園**

**・都市の貴重な空間を活かす地域共生公園**

***Ⅲ.今後の取組み***

**１．公園整備**

**（１）観光公園としての機能強化**

　　　万博の遺産を継承・活用するとともに、公園の新たな魅力を創出し、国内外から集客を図る

**①メインエントランスの整備**

　　　　　公園中央口から太陽の塔、お祭り広場、日本庭園に続く通り一帯を公園の顔（メインエントランス）と位置づけ、重点的に整備、集客を図る。

　　　　・万博記念公園のランドマークとなる太陽の塔の改修・内部公開

　　　・日本文化が体験できる場としての日本庭園（茶室・休憩所）の活用

**②観光集客イベントの実施**

　　　・万博をキーワードとして広域性のあるイベントを展開。

　　　・民族学博物館と連携したイベント（食、ナショナルデー等）の実施

・光をテーマとした春夏秋冬のイベント

**③公園駅前周辺の活用**

　　　　公園駅から南側の中央駐車場、万博記念ビル、ディリパ周辺エリアの活用策を検討

**④南側ゾーン活性化事業との連携・活用**

　　　　関西一円からの集客が見込める複合型エンターテイメント施設と連携した取組

**⑤観光客の憩いの場の整備**

　　　　公園の魅力が満喫できるカフェやレストランなどの展開

**⑥より深い観光の仕組みづくり**

　　　　　・万博に集結した芸術家、建築家、造園家などの作品を解説

・万博記念公園検定、万博全体のガイド養成、ガイドツアーなど、より深く万博を楽しむ仕組みづくり

・人工地盤の自然再生事業をガイドツアーなどにより紹介（環境復元モデル）

**（２）広域拠点公園としての機能強化**

　　関西圏の人々が、文化・スポーツ・みどりを通して交流できるような機能を付加

**①広域スポーツ施設の運営・整備**

　　万博記念公園に相応しいスポーツ施設の再編整備

**②公園東駅前周辺の整備**

　　公園東口駅前の万博記念競技場、運動場、東駐車場エリアについて、万博記念競技場の整備方向を踏まえた展開を検討

**③文化・スポーツイベントの実施**

　　　・関西一円から参加が見込まれるスポーツイベントの実施

・太陽の塔、EXPO’70パビリオン、日本民芸館などとも連携した文化交流イベントの実施

**④交流拠点としてのみどり**

　　　・日本庭園、自立した森など「みどり」を活用した交流・集客事業を展開。

**（３）地域共生公園としての機能強化**

　　　地域の人々が憩い、四季折々の自然が楽しめ、地域の人々と共に公園を育てていくことができる機能の強化

**①自然文化園の利用促進**

自立した森のレクリエーション性向上

人工地盤の自然再生事業のＰＲ

健康、食文化、花鳥風月など多様な体験プログラム

**②自然観察学習館の活用**

各種ボランティア団体とも連携した公園づくり、自然観察会の実施

自然再生体験、ナイトキャンプなど多様な体験プログラムの実施

**③大阪大学との連携強化**

大阪大学による万博記念公園内での多様なプログラム展開

**④学校行事での利用促進**

・幼稚園から高校までの郊外学習の誘致。

・学校向け、みどり及び文化学習プログラムの実施。

**⑤アプローチの改善**

・周辺地域の施設と関連した動線・エントランスの整備。

**２．運営手法**

ビジョンに基づき公園全体を一体感を持って管理・運営できるよう、以下の仕組みを構築

**（１）民間活力の活用**

公園の機能を最大限発揮させ、集客・収益が図られるよう、民間活力の導入を検討

**①公園運営のあり方**

　　　　　公園全体を管理運営していくにあたって、民間団体などが参画する最適な手法のあり方について検討。

②ＰＦＩ方式や土地貸付方法による施設整備

　　　③観光事業者とタイアップした広報戦略、イベントの実施、海外向け広報の実施、海外向けガイドブックの掲載戦略

**（２）ＮＰＯの活用**

地域共生型公園として、ＮＰＯやボランティア団体の力も活用して公園を管理

**（３）寄付の活用**

　　　持続可能な公園運営に資する個人寄付、企業協賛や企業連携の推進

太陽の塔の改修整備・運営、自然再生への協賛、万博遺産保全への協賛など